

演奏会について思うこと

教師がすべきことは、生徒本人の考える力を育てることであるということには分かってないわけではないのだが、ピアニストのように、指揮者と同じく楽譜から音楽を読み取った上オーケストラ全員ですべき仕事を一人でやる、複雑に絡み合った問題を解決しつつ感動的な演奏を成し遂げる為には、生徒が自分で読み取り感じ取るのを待つ姿勢だけではなかなか膨大なレパートリーが要求している高み、深みには達し得ない。

そこで、最善の方法であるかは常に疑問を持ち、試行錯誤しながら、私という音楽家が楽譜を通してどう音楽と対峙しているのかを可能な限りあらゆる方向から生徒に示し続けて来た。

レッスンで実際に取り上げた曲に関しては、結局は私の考え通りに弾かないわけにはいかないという窮屈さを感じる場合もあるかもしれないが、徹底して体験してみなければ解らないことも多い。

そうやって体験出来るだけのことをした上で、卒業後一生かかって自分の道を探して翔んで行くように!と送り出すのだが、高校から7年間教えた生徒に対してでも充分なことをしてあげられたと満足したことは一度も無い。

しかし、今回、私と研鑽を積んで、卒業からある程度年数を経た人達が集まって演奏会をすることになって改めて見渡してみるとそれぞれがいろいろ考えながら歩んでいるなど感じ、あながち自分のやって来たことも間違っていないかと思ってしまう。

自分とは云えば、いつの間にか還暦になってしまいどこまで突き進めるのか挑戦の日々である。

木村徹
Toru Kimura

桐朋女子高校音楽科(共学)を経て桐朋学園大学音楽学部にて1984年、第3回 新人音楽コンクール・ピアノ部門で第1回「音楽現代新人賞」のオーディションで優秀賞。

ソロ、室内楽、伴奏の多くの演奏会や音楽祭、放送等で、聴衆及び共演者から興味深い音楽家と認識されている。

1997年ルーマニアに於いての国立トゥルグムレシュ交響楽団との協奏曲で高評価を得て以来度々招聘され、翌年には、デュオ・リパッティ交響楽団とも共演。

1999年には、スタンディング・オヴェーションの熱狂的な成功。2014年、今年2月の公演も大成功。

砂長谷 裕美、森安 芳樹 その他の各氏に師事。

3枚の「木村徹ピアノリサイタル」のCD (ライヴノーツ wwwc 7420.7532.7768) は各誌で推薦され、第1集のシューマン 幻想小曲集と 第2集の シマノフスキの変奏曲について、エリック・ハイドシエック氏から 特段の賞賛を受けた。

即興演奏・作曲等を独学で習得し、15歳のときにはフーガ楽章を含むピアノソナタを作曲。

また、数年前に 千葉市立高州小学校の校歌を依頼されて作曲。

現在、桐朋学園大学、大学院および高校講師。長くオペラクラス等声楽の授業の伴奏を担当し、最近では、ピアノ専攻実技と初見、室内楽を指導。

HPは、「木村徹ピアノサイト」で検索

奈良裕子
Yuka Nara

桐榮哲也
Tetsuya Toei

奈良裕子	J.S.Bach : Das Wohltemperierte Klavier Teil I C-dur BWV846
桐榮哲也	Liszt : Deux Légendes S.175 II "St.François de Paule marchant sur les flots"
	Beethoven : Fantasie g-moll, Op.77
	Debussy : Études pour le piano "Pour les cinq doigts"(d'après Monsieur Czerny). "Pour les octaves"
根本英亮	Skrjabin : Sonate Nr.5, Op.53
野口裕紀	Liszt : Rhapsodie espagnole S.254
瀬川由馬	Brahms : Variationen über ein Thema von Paganini a-moll, Op.35 Heft I
保科有希	Chopin : Scherzo Nr.4 E-dur, Op.54
大井望茂子	Chopin : Ballade Nr.4 f-moll, Op.52
木村 徹	Schumann : Symphonische Étüden cis-moll, Op.13

根本英亮
Fisuke Nemata

野口裕紀
Yuki Noguchi

瀬川由馬
Yuma Segawa

保科有希
Yuki Hoshina

大井望茂子
Mamoka Ooi